

ポニコツ車と五人の紳士

別役実

■登場人物

紳士

2

3

4

5

舞台中央に、一台のポンコツ車がへたばっている。風の音がする。これは、終始とぎれない。黒いヨレヨレのモーニングに山高帽をかぶり、めがねをかけ、ひげをはやし、ステッキをついた紳士が、ビッコをひきながら現われ、ポンコツ車の上に坐り靴を脱ぐ。靴の中に小さな石コロのようなものが入っているらしいのである。振っても出てこない。手を入れてみる。何も無い。のぞいてみようとして……ひどい匂い。手を放すと靴がポトンと落ちてころがる。黒いヨレヨレのモーニングに、山高帽をかぶり、めがねをかけ、ひげをはやし、ステッキをついた紳士2が、着ているものが少し小さいのだろう、着心地悪そうに袖を引っぱったり、背を伸ばしたりしながら現われる。靴を見つめる。蹴つとばす。

1
よせ。

2
何だい、こいつは？

1
靴さ、見ればわかるじゃないか。ちゃんとカカトだってある。

2
カカトはあるさ。しかし何だってこんな所に靴があるんだい？

1
俺が落したんだよ、今。とってくれ。

2
いいとも。(拾う)捨ててしまうにはまだ惜しい。

- 1 ちよつと匂いを嗅いでみてくれるかい？
- 2 匂いを……？
- 1 うん。
- 2 何故……？
- 1 匂うんだよ、ひどくね。
- 2 (嗅いでみる)……匂うよ。うん。(1に返しながら)かなりひどいといつてもいい。どうしたんだろう……？
- 1 (受け取り)ひどいんだよ。全く予想していなかったわけじゃないけれども、これほどだとは思わなかったな。(もう一度嗅いでみる)やっぱりひどい。
- 2 どうなんだろうね、捨てちゃった方がいいんじゃないかな……。
- 1 捨てる……？
- 2 不衛生だよ。
- 1 そりゃそうだ。
- 2 俺ならそうするね。
- 1 しかし……、俺にはこれしかないんだぜ、あとにもさきにも……。
- 2 (指さして)もう一つあるじゃないか。
- 1 これはこっちの分だよ。

- 2 しょうがないさ。ぜいたくはいえないよ。スポンをはいてない奴だっているんだ。
- 1 それもそうだな。
- 2 よこせ。(靴を受け取って上手へ放り投げる)
- 1 おい、よせ……。
- 2 何だい？
- 1 いや、もうちょっと考えてみようと思ってね、捨てるならそれからだって……。
- 2 それがいけないんだよ。そういうのが一番いけないんだ。つまり物に対する執着さ。だって臭かったんだよ。あんなものどっとく手はないね。
- 1 そりゃあそうだけでもね、長年使ってきたものだからね。
- 2 そうさ、だから臭いんだよ。そっちの奴は、どうだい？
- 1 これは大丈夫だよ。
- 2 何故？
- 1 何故って……。これはいいよ。
- 2 調べてみた方がいいんじゃないのか？
- 1 いや、それはあとにしよう、だって……。

黒いヨレヨレのモーニングに山高帽をかぶり、めがねをかけ、ひげをはやし、

ステッキをついた紳士3が、靴をひとつぶら下げて現われる。

- 3 落ちてたよ。
- 2 どこに……？
- 3 そこにさ……。
- 2 匂うんだよ、そいつは。
- 3 (嗅いでみる)……匂う。ひどいね。畜生。(靴を叩きつける)
- 1 よせ、馬鹿。(思わず拾う)
- 3 お前のか？
- 1 いや……。(ちよっと嗅いでみて、それからやむなく捨て)捨てたのさ。つまり……
匂うからね。
- 3 匂うよ。何てえ匂いだい。(蹴る)何でこんなものをこんな所に放っとくんだ。
- 2 いや、だから俺はさっき、その……あっちの方へ……。
- 3 あっちの方へじゃないよ。何故もっと遠くの方へ放り投げないんだ。ここへくる
すぐそこるところへ、まるで拾って下さいっていわんばかりにおいてあったんだぜ。
- 2 かし……。
- 3 かしじゃないよ(ーに)おい、モタモタしてるんじゃない、捨てちまうんだ、

そんなもん。息がつまりそうだ。

1 もちろんだよ、こんなもん、捨てるさ。さっきだって俺は……。 (拾う)

3 放り投げちまえよ。

1 いいとも。(放り投げる)

3 みっともない、あんなものにみれんを残すなんて……。

2 そうなんだよ、俺もそうだったのさ、つまり物に対する執着だね。

3 煙草あるか？

2 あるよ。(出してやる) 何がみっともないって言って、物に執着するくらい……

3 火は？

2 そうか。(火をつけてやる)

3 (1のもう片一方の靴を見て) そっちの方はどうなんだ。

1 え……？

3 そっちにもう一つ残ってるじゃないか。

1 ああ……、これか……。

3 それは大丈夫なのか？

1 これね……。これはまあ……。 (逃げる)

3 調べてみたのか？

1 いや……、だけど……。

3 脱げよ。

1 脱ぐ……？

2 それは……、大丈夫なんじゃないかな。

3 何故わかる？

2 いや、ただ何となく……。

3 脱ぐんだよ。

1 いいとも。(脱ぐ)

3 嗅いでみる。

1 (嗅ぐ。ひどい匂い……) うん……。

3 匂うのか……？

1 うん……、匂うことは匂うけど、さっきのよりは……。(もう一度嗅ぐ)

3 お前、嗅いでみる。

2 俺が……？

3 その方が公平じゃないか。

2 (1から受取って嗅ぐ。ひどい匂い) ……うん。

3 どうなんだ？

2 しかしお前、こいつにはもうこれひとつしか……。

3 匂うのか、匂わないのか？

2 ……匂うよ。

3 捨てる。

2 (ーに) 匂うじゃないか。それは事実だよ。さっきのよりは匂わないかもしれないけれど、しかし、匂うことは匂うんだから……。

3 捨てるっていうのがわからないのか。

2 (放り投げる) 匂ったんだよ。それはお前だって認めるだろう？ な、しょうがないよ。気にするなよ。それほどみっともないって感じでもないし。ズボンはいらない奴だっているんだから……。

3 お前のはどうなんだ？

2 え……？

3 お前のはどうなんだって聞いてるんだよ。

2 俺のって、俺の靴のことか？

3 そうさ。

2 だって、俺のはぜんぜん……。そりゃあそうだよ。そんなこと……。だってお前……そんな……。

3 調べてみる。

2 調べるなんて、そんな馬鹿馬鹿しい……。

3 脱がないのか？

2 脱ぐよ。脱ぐけど……（脱いで。嗅いでみる、ひどい匂い）そんな……（もう一度嗅いでみる、やっぱりひどい）たいしたことはないし……。

3 （1に）嗅いでみる。

1 （嗅ぐ。ひどい匂い。黙って2に返す）

3 匂うか？

2 そりゃあ、匂うよ。匂うさ。当り前じゃないか。靴なんだからね。しかしいいかい、そんなひどい匂いじゃないぜ。（もう一度嗅いでみる。ひどい）俺のは、どっちかって云うとすがすがしい……。

3 捨てる。

2 捨てる？

3 捨てちまうんだ、そんなもん。

2 そんなもんたって……。

3 捨てないのか？

2 捨てるよ。捨てるよ。こんなもん。（放り投げる）えーい、畜生。そりゃあ匂った

よ。しかし、そんな悪い匂いじゃなかったんだから……。 (煙草を出して、火をつける)

1 俺にも一本くれ。

2 お前に……？ (残りを調べてみる。あまりない、がしかたがない) ほら……。そりゃあ少なくともいい匂いじゃなかったよ。しかし、何てえのかな、時々は嗅いでみてもいいって感じの……。

3 そっちは？

2 何だい？

3 そっちはどうなんだ？

2 こっちは大丈夫さ。

3 何故？

2 匂わないよ。

3 どうしてわかるんだ。

2 調べてみたからね。

3 もう一度調べろ。

2 何度やったって同じさ。

3 おい、脱げ。

- 2 わかったよ。何て奴だ。(脱ぐ。嗅いでみる)
- 3 どうだ。
- 2 全然匂わないよ。
- 3 (1に)お前、嗅いでみる。
- 2 畜生。(放り投げる)いらねえや、あんなもん。そうだろう。臭い靴はいてるよりは裸足の方がよっぽどいいや。なあ。ペタペタしていい気持ちじゃないか。どうだい、チンパンジーみたいかい？
- 1 まあね……。しかし、この上に乗っかってた方がいいぜ。足に何かささったりすると大変だよ。
- 2 そうだね、そうしよう。(ポンコツ車の上に乗る)
- 3 それほど恥ずかしがらなくなったっていいさ。当然の事だよ。誰だって臭い靴をはいてるなんて、人間としてほとんどあり得ない事なんだからね。チューインガムあるか？
- 1 あるよ。
- 3 よこせ。
- 1 どうするんだ？
- 3 どうする？ チューインガムをどうすると思っただ、馬鹿。

3、1からチューインガムを受取って口に入れる。黒いヨレヨレのモーニングを着て山高帽をかぶり、めがねをかけ、ひげをはやし、ステッキをついた紳士が現われる。裸足である。

4 やあ、こんにちわ。

1 こんにちは。

4 いいお天気で何よりだ。

2 (あたりをうかがい) 成程、いいお天気だ。気がつかなかったよ。

4 俺は気がついていたよ、さっきからね。新聞に書いてあったんだ。(ポケットから新聞を出してひろげる) 天気予報さ。いいかい、明日の天気。この明日ってのは今日の事だよ、と、いうのはつまり、これは昨日の新聞だからね。南の風、晴、時々曇り、ところにより一時雨……。どうだい？

3 何だって？

4 南の風だよ。それから、晴れで、時々曇りで、ところにより一時雨さ。

3 それじゃまるつきり何もわかりやあしないじゃないか。

4 わかってるじゃないか。はっきりしてるよ。南の風が吹くって言うてるんだぜ。

それから晴れるんだ。いいじゃないか。こいつはそう言ってんだ。しかも時々は曇るかもしれないよってまで言ってるんだぜ、その上ところによっては、一時雨になるかもしれないって言ってんだ。実に細かいところまでよく気を配ってあるじゃないか。

3 俺が知りたいのはこうさ。いいか。晴れなのか曇りなのか、雨なのか……。

2 だから言ってるじゃないか、南の風、晴れだって……。はっきりしてるんだよ。

4 そうさ。ただし、時には曇るかもしれないし、ところによっては……。(とめようとする2に)だって書いてあるんだから、ね、しようがないよ。

1 つまりね、晴れなんだよ。これははっきりしてるんだ。

2 そうだよ、それははっきりしている。

1 そうだけれども、もし曇ったとすれば。

3 何故曇るんだ？

2 いいから聞けよ。

4 何故曇るかって云えばだな……。

1 いいよ、俺が言う。つまり、晴れは晴れなんだ。しかしもし曇ったとすれば、それは一時的なもので、更にもし雨が降ったとすれば、それはところによるんだから、特殊な場所だって、そういう事だよ。

- 2 そういう事さ。
- 4 つまり、いいか……。
- 2 お前はよせよ。
- 3 要するにだな、俺が言いたいののは極く単純な事なんだよ。晴れるのか曇るのか、雨が降るのか……。
- 4 だからさつきから言ってるじゃないか。晴れるんだけども、曇ることも、雨が降ることもあるんだって。
- 3 だからさ、それじゃ何が何だか……。
- 1 おい、ひとつだけ、はっきりしてるよ。
- 2 何が……？
- 1 つまり南風が吹くんだ。この点についてちやあ、その……北風の事も、東風の事も、西風の事も書いてないからね。
- 3 本当に吹いているか……？
- 2 (指をなめてかざしてみる) ……吹いてるよ。
- 3 どっちからだ。
- 2 こっちだ。
- 4 それじゃ、そっちが南だ。

- 1 ね、これは当たってる。
- 3 何故そっちが南なんだ？
- 1 だって、そっちから吹いてくるんだぜ、風は。
- 3 それはわかったよ、しかしいいか……。
- 2 おい、よく聞けよ。ここに南風が吹くって書いてあるんだ。な。そこで確かめて
みたら、風はこっちから吹いていた。だからそっちが南じゃないか。
- 3 よし、こっちが南だとするぞ。
- 4 南とするだろ。風はそっちから吹いてくるんだ。
- 3 どっちから？
- 1 そっちからだよ。
- 3 よし、それはいい。
- 2 だから、南風だ。
- 3 何故……？
- 4 南から吹いてくる風だから、南風だよ。
- 1 そうするとこれは当たってるって事になる。南風が吹くって書いてあるからね。
- 3 待て。
- 4 お前、少ししつこいぞ。

- 3 うるさい。いいか、一寸変だぞ。
- 2 何が変なんだよ、いったい。
- 3 黙ってる。
- 1 最初から順序だてて説明すれば、すぐわかる事なんだ。いいかい……。
- 3 そうだ。何故こっちが南なんだ……。
- 4 馬鹿。
- 1 云ったじゃないか、風はそっちから吹いてくるんだぜ。
- 3 そうじゃない……。
- 2 そうだよ。お前何だっつんだ。風はそっちから吹いてないっつてののか？
- 3 吹いてるさ。風はこっちから吹いてるよ。そんな事はわかってるんだ。
- 4 ならそれでいいじゃないか。南風が吹くって書いてあるんだからそっちが南さ。
- 3 南だあ？
- 2 南さここに南風って書いてあるじゃないか。見てみるよ。南って字だろ。まさか
お前、これを北って読むわけじゃないんだろ？
- 3 何だと？
- 2 だって、お前がそう言うからさ。
- 3 畜生。違うぞ。お前等、何か間違っているぞ。

- 4 何処が違んだよ。
- 3 何処かさ。
- 1 最初から順序だてて考えれば……。
- 3 うるさい。
- 4 よせよせ。放っとけよ。
- 2 やめよう。天気予報以外に、何か書いてないのか？（新聞を手にとる）
- 4 うん。煙草あるか？
- 2 煙草……？ うん……。
- 1 もうあんまりないんだよ。みんなにやったんでね。
- 4 しかし、ある事はあるんだろう？
- 2 まあね。（出して渡す）
- 3 そうだ……。
- 4 何で靴なんかはいてるんだい、奴は？
- 1 靴……？
- 4 はいてるじゃないか。靴だろ、あれ。カカトだってちゃんとある。
- 3 靴さ。お前、何ではいてないんだ。
- 4 何ではいてないんだ、だってさ。馬鹿、不思議がる事なんてない、誰もはいてや

しないじゃないか。

3 誰もはいてないって、そいつらが何ではいてないのか、知ってるのか？

2 (4に)俺たちはね、その……捨てちゃったんだよ。

4 捨てたんだろう？ 俺もさ。

1 つまり、匂ったもんでね。

4 匂うんだよ。俺の靴のあの臭さったらなかったぜ。鼻つまんでも目から入ってくるんだ。

2 匂いがかい？

4 匂いがよ。ひどかったな。頭がクラクラしやがってさ。

2 俺もだよ。

1 俺もさ、目にはこなかったけれどもね。

4 あんなものは捨てちゃうに限る。

2 不衛生だしね。

4 不衛生だとも。しかし……奴は何故捨てないんだい。

1 そう……だね。

3 ふん、俺の靴も匂うってのか？

4 俺が考えるにだね、奴の靴は匂わないと思うが、どうだ……？

2 だろうね。

4 お前は……？

1 そう思うよ。

4 匂わない？

1 うん……。

4 つまり、だから捨てないんだ。そうだろ？ だってそうとしか考えられないから

ね。臭かったらとつくに捨てちまってるよ。臭い靴を後生大事にはいている馬鹿あ
いないさ。犬だって臭い靴なんかくわえてかないぜ。俺は腹の減った野良犬にぶっ
つけてやったんだがね、野郎、ちよっと匂いをかいでから、顔をそむけていっちな
いやがった。(笑う。1と2も、3にやや遠慮しながらだが、笑う)臭い靴をはいて
るなんて、臭いパンツをはいてるのと同じくらい、嫌な心持だね。何かその辺が
ゆくなってくるみたいないな感じでね。ムズムズするよ。(新聞を見ようとしている1
と2に)何かあるか……？

3、退場しようとする。そこへ、よれよれの黒いモーニングに山高帽をかぶり、
めがねをかけひげをはやし、ステッキをついた紳士5が現われる。靴ははいて
いる。

- 5 おい、どこへ行くんだ？
- 3 え……？
- 4 便所じゃないかな……？
- 5 何だあ？
- 4 オシッコへ行くんだ、そいつは、さっきから行きたがってたんだ。行かしてやっ
てくれ。気の毒だよ。
- 5 行けよ。
- 3 俺は別に小便なんかしたくない。
- 5 したくいていうぞ。
- 4 したいんだよ。遠慮してるんだ。いいじゃないか、行かしてやれよ。あんなもの
我慢したって何の得にもなりやしない。
- 5 俺は別にとめてやしないぜ。
- 4 とめてなくなたって、気がきかないじゃないか。そんなとこに突っ立ってジロジロ
見られたら出るものも出ないぜ。
- 5 そうか……。 (ポンコツ車の三人に近づく)

3、ややそのまま立っているが、やがて引返してきて、少しはなれて坐る。

5 行きたくないらしいぞ。

4 そうだな……。どうしたのかな……。？

5 おい、こっちにこい。

3 え……。？

5 ここへ坐れよ。(みんなに) いいか、手紙が来たんだよ。

1 手紙が……。？

5 うん。

5、ポケットから白い封筒を出す。3もポンコツ車の上に坐る。つまり、全員、坐ったのである。

5 どうだ、これだよ。(ちょっと匂いを嗅ぐ) うん。(3にも嗅がせる)

3 (嗅いで) うん……。

2 (嗅いで) うん……。

1 (嗅いで) うん……。

- 4 どちら、俺にも……（嗅いで）うん……しかし匂わないぜ。
- 5 匂わないさ。手紙ってのはおおむね、匂いはないもんなんだ。
- 3 匂うのは、お前の靴さ。
- 4 うん匂ったよ。だから捨てたのさ。お前の靴は匂わないから、捨てない。
- 5 匂わないのか、お前の靴は……？
- 3 うん……、まあ……。
- 5 ふん、俺のは匂う。
- 1 匂うのかい？
- 5 匂うよ。靴ってのはおおむね、匂うもんなんだ。つまり、それぞれ個性的な匂いをもっている。だから靴だって云ってもいいくらいのもんさ。
- 2 まあ、靴の話はやめよう。
- 5 よし、手紙だ。しかし、その、靴の匂いの事だけでもね……。
- 1 いいじゃないか、それはあとで……。
- 5 もちろん、あとにするけどね、何ていうのかな、いいもんだね、あれは……。
- 4 いい？
- 5 いい。実にいいね。俺は時々、ひとりで嗅いでみるよ。
- 3 何故？

5 こっそりとさ。だってそうだろう。大の男が靴を嗅ぐなんて、あまりいいもんじやないからね。まあ、いい。手紙だよ。これ、どうしたと思う？

1 届いたんだろ？

5 届いた。そうなんだよ。実に感動的じゃないか、手紙が届くなんて、ね……。実は俺がさっきそこで……。つまりそのために話したんだけど……。ひとりで靴を嗅いでいたんだよ。まあいいじゃないか、そう云う事でどうのこうの言うのはやめようよ。そこで……。その……。匂いを嗅いでいると、ポトンと音がした……。

2 ポトン……？

5 ううん……。いや、ポトンじゃないね。

4 コトンじゃないか？

5 コトン……。？ 違う。そう……。どういふのかな……。カサリ、そうだ。カサリって音がしたよ。

1 それで……。？

5 それで……。びっくりした。

3 何故？

5 何故って、びっくりするじゃないか。音がしたんだぜ、カサリって。それも、靴を嗅いでる時にね。お前びっくりしないのか？

- 3 うん……、やっぱり、するね、びっくり……。
- 5 するよ。だから俺もびっくりした。
- 2 俺も、そうだね、きつとびっくりする。
- 1 それから……？
- 5 それから？ 決まってるじゃないか、考えたよ。
- 4 何を？
- 5 つまり、何の音かって事をさ。それから思いついたよ。あれはもしかしたら、ポストに手紙が入った音じゃないかなって……。
- 1 ふん、最初にか……？
- 5 いや……、二番目にさ。最初はこう考えたんだ、犬が落葉を踏みつけたんじゃないかなって……。
- 4 俺ならこう考えるね、誰かが鼻をかんたんじゃなかった……、つまり、かた
い紙でさ……。
- 3 俺ならこうさ、誰かが便所で新聞を読んでいるなって……。
- 2 俺はこうだよ。垣根に洗濯ものがひっかかったなって……。
- 5 お前はどうか……？
- 1 俺？ 俺はそうだな……、もう一度音がするのを待つよ。

- 2 しかしお前、一度しかないかもしれないじゃないか。
- 1 そうだけど……、その時はそうは思わないかもしれなからね……。
- 5 ふん……、ともかくそうだよ。俺は二番目にポストの事を考えた。で……、行っ
てみた。これがあつたよ。
- 2 どんな感じがした……？
- 5 うん……。 (考える)
- 3 ドキンとしたんじゃないかな。
- 4 ハツとするんだよ、そういう時にはよくね。
- 1 まあいいじゃないか、とにかく読んでみようよ。
- 5 今か……？
- 1 今さ。
- 5 今、すぐか……？
- 1 だって……、何故……？
- 2 おかしいかな、やっぱり……？
- 4 いや、そんな事はないよ、手紙は来たらずぐ読むもんだ。だって、急ぎの用かも
しれないし……。
- 3 急ぎの用だよ、きつと。俺はそう思うね。そうとしか考えられない。そうだろ。

手紙をよこすなんてよくよくの事だぜ。

5 そうか、じゃあ、読もう。(封を切る) えーと、はいけい……。うん、これはつまり手紙の書き出しによく使う言葉だね、特別の意味はないんだ。いいかい、おげんきですか……。ははあ、おげんきですか……。おい。

3 俺は元気だよ。

5 そうか。お前は？

1 俺も元気さ。

5 お前は？

2 元気だよ。

5 おい、お前？

4 何だ？

5 元気なのかどうかって聞いてるんじゃないか。

4 元気だよ。

5 よーし、俺も元気だ。えーと……。私も元気です。ははは、やっこさんも元気だとき。いいじゃないか、とにかく元気にした事はない。えー……。夏も去り、そろそろ涼風の立ちはじめた今日このごろ……。そうか……。やっぱり……。

4 何が……？

5 秋なんだよ、つまり夏が終わったんだ。

2 そうか、秋か……。

3 秋なんだね、俺もどうもそうじゃないかと思っていた……。

1 三日前からさ、俺は三日前の朝早く起きてみて気がついたよ、こりゃあどうやら秋だぞってね……。

5 えー……涼風の立ちはじめた今日このごろ、みなさまがたにはいかがおくらしでしようか……。

1 相変わらずだよ。

3 俺もね。

2 俺もね。

4 俺も……。

5 俺も考えてみるとそうだね、相変わらずだ……。えー……私も相変わらず……。こいつも相変わらずだってさ。仕事に精を出しております。

3 そいつの仕事ってのは何だい？

2 うん……、大工じゃないかな……？

4 俺は仕立屋だと思う。

1 床屋かもしれないね。

- 5 先日、角のパン屋の御主人がお亡くなりになりました……。おい、亡くなったぞ。
- 4 誰が……？
- 5 角のパン屋の御主人だよ。
- 3 そいつは何だ？
- 2 いいか、角にパン屋があつてそこに御主人がいたんだ。そいつが死んだんだよ。
- 3 ふうん、それはいかんね……。
- 1 それで、どうした……？
- 5 長い間病気で寝ていたのですが、先日の大風の日、急に容態が悪くなり、娘さん
がお医者様を呼びに走ったのですが、間にあいませんでした……。
- 4 何故、電話をかけなかったんだらう……？
- 1 なかったんだ。
- 3 その娘つての、足が遅かったんじゃないかな……？
- 2 でもしようがないよ、一生懸命走ったんだからね。
- 5 俺もそう思う。その娘を責めるわけには、いかないよ。
- 3 そりゃあそうだ……。
- 5 お葬式のあと三日ばかり休んでおりましたが、今は奥さんと息子さんがパンを焼
いております。

- 2 よかった……。
- 4 いい息子だね。
- 3 なかなかそうはいかないもんだよ、今時の若いもんはね。
- 1 何故その息子が走らなかつたんだろう。医者へ……？
- 3 居なかつたんじゃないかな……。
- 4 居なかつたのさ。そいつは他の街の学校の寄宿舎に居たんだよ。親父さんが死んだって電報を受取つてあわてて帰つてきたのさ。
- 2 そうだよ。三日目に決心したんだ、学校をやめてパン屋をやろうって……。
- 3 えらいね、なかなかそうはいかないもんだ……。
- 5 二丁目の荒物屋のお婆さんは……、元気です……。
- 1 荒物屋にはたいてい婆さんがいるけど……、たいてい元気だよ。俺の知ってる荒物屋にもひとり婆さんがいたけど、そいつも元気だった……。
- 5 え……：：：図書館の裏の煙草屋の娘さんが風邪をひきましたけど、直りました……。
- 3 よかったね。
- 4 風邪だつてこじらすとあぶない……。
- 2 つまり、こいつの居る街には図書館があつて、その裏に煙草屋があつて、そこに娘がいるんだね。

- 1 そうさ。そして、そいつが風邪をひいたんだ。
- 2 なるほど……。
- 3 おむかいのうちでは犬を飼いました。
- 4 そりゃあいい。
- 5 なぜ？
- 4 用心がいいよ、犬がいるとね。知らない奴が入ってくると吠えるんだ。
- 2 俺にも吠えるかな……？
- 1 恐らくね、俺にもさ……。
- 5 まだまだ書きたい事が沢山ありますが、今日はこのへんでやめます。くれぐれもお体を大切に……、いずれお訪ねして、みなさまとお会いしたいと存じます……。
- 4 おい、何だって……？
- 5 いずれお訪ねして……、みなさまとお会いしたいと存じます。
- 3 来るのかい……？
- 5 そう書いてあるよ。みなさまの心からの友より、みなさまへ……。
- 2 だって、そんな……。
- 3 どうやって来るんだらう……？
- 4 どうにかして来るんだ、手紙を寄越したくらいだからね、俺たちにかなり好意を

もっているんだよ。

5 いずれお訪ねして、みなさまとお会いしたいと存じます……。やっぱり、来てって意味だよ、これは……。

3 いずれって、いつだい？

1 そのうちについて事さ。つまり、近いうちだよ。

2 でも……、こいつはいったい誰だろう……？

5 友達だよ、俺たちの。いいかい、みなさまの心からの友よりって書いてる。

4 俺たちの事が好きなんだよ。だって、パン屋の事まで書いてあるんだからね。

2 会ったら、何て云うだろう……？

1 きっと、びっくりするよ。

5 何故……？

1 俺たちが、こんな風だとは思ってないんじゃないかな。

3 そんな事はない、俺たちは、そんなに悪くはないよ。

4 しかし、どうのこうの云っても、長い間こういう生活をしてんだからね、肌のツヤなんか、やっぱり違うと思うよ……。

1 どっちの方からくるだろう、そいつは？

2 そうだな……。 (みまわす) 俺は東だと思う……。

- 5 東はどっちだ……？
- 4 こっちが南だよ。
- 3 お前、さっき南はこっちだっていったぞ。
- 4 こっちさ。
- 3 いや、確かこっちだって云ってた。
- 1 風の吹いてくる方向さ。
- 2 (指をなめて確かめる) こっちだよ。
- 3 みろ。
- 4 しかし、さっきはお前……。
- 2 とにかく、こっちから吹いているよ、風はね。
- 1 それじゃ、そっちが南さ。
- 5 何故そっちが南なんだ……？
- 3 それなんだよ、俺もさっきそれを云ったんだがね……。
- 4 つまり天気予報によるとね、南風が吹くって事になってるんだよ。だから、そっちが南さ。
- 3 しかしね……。
- 5 その天気予報は当たってるのか？

3 それだよ。それが肝心な事さ。

1 当ってるんだよ。さつき、確かめてみたんだけどね、やっぱり風はこっちから吹いていたんだ。

5 (3に) そうなのか……？

4 俺はこっちだと思ったがなあ……。

3 こっちなんだよ。それは確かなんだ。

5 それじゃこっちが南さ、間違いないよ。

2 すると、こっちが北だから、東はこっちか……？

1 そうだ。

5 なるほどね、こっちから来るのか……。

4 何やってんだ。

1 書いとくんだよ、今度風向きが変わったら元も子もないからね……。

1、ポケットから白墨を出して、ポンコツ車の屋根に大きく十字を書き、東西南北と書き印す。従って全員、ポンコツ車の上からおりる。

3 しかしねえ、俺はどうも納得出来ないんだが……。

4 まだ言ってるよ、こいつは……。

2 あの辺まできたら、俺は帽子をとって振るよ。そうじゃないと、わからないかもしれないからね。

5 (ポンコツ車を指して)これが目印さ。奴はこれを目指して来るんだ……。

1 しかし、見えるかな、これが、遠くから……？

4 見えるさ、このあたりには、これしかないよ。

3 地味だからね、こいつは。パツと目につくってシロモノじゃないよ。

2 いいか、今考えたんだけどねえ、奴が来ても、俺たちだって事がわかるかなあ。

5 それはどういう意味だ？

2 つまりさ、奴は俺たちに会いに来るだろう？ で、俺たちの所へ来るよ。しかし、いいか、俺たちの事を別な奴等だって思いやしないかな……？

4 何だかよくわからないね、言ってる事が……？

1 こういう事じゃないかな。奴は俺たちに会おうとして俺たちのところへやってくるんだけど、俺たちに会っても、俺たちの事を、奴の会おうとしていた奴等とは違う奴等じゃないかって考えて、行ってしまふんじゃないかって……。

3 つまり、俺たちの事を俺たちだって思わないかもしれないっていうんだな？

- 2 そうだよ。
- 5 そうか……。そいつは困ったな……。
- 4 言えればいいじゃないか、そいつに。俺たちだよって……。
- 3 そうだよ。それでいいじゃないか。それでわかるよ。
- 2 俺たちの事を知ってるのかなあ。
- 3 知ってるさ。友達だぜ、それも心からのね。
- 1 しかし、俺たちは奴の事をなんにも知らないんだからね。
- 4 知ってるじゃないか。手紙に書いてあったよ。つまり、奴の住んでる街には、パ
ン屋と荒物屋と煙草屋があるんだ。
- 5 それに、図書館と向いの家だよ。
- 3 充分さ。それだけ知ってれば充分だよ。
- 1 まあいいよ、とにかく会えば何とかなる。相手だってそのつもりでくるんだから。
- 2 そうだね。しかし、おい、みんなこっちを向いていよう。
- 5 何故……？
- 2 だって、こっちから来るんだからね。あいつが、俺たちを見つけるより前に、俺
たちがあいつを見つけてやった方がいい。そうして、帽子を振ってやるのさ。
- 4 だからお前は百姓だっていうんだ。みっともないじゃないか、まるで俺たちが人

に会ったことないみたいだぜ。いいんだよ、こっち向いてるんだ。奴がやってきて、ポンと肩叩いて、やあって、そういう調子さ。

2 そうか……。

4 ぜんぜん待ってなんかいないって風にしてよう。

5 でも、どうするんだ……？

3 何か仕事をしてたらどうだろう。一所懸命に……。

4 それだよ。それがいい。

1 しかし、何やるんだ……？

4 何かあるだろう……。

2 なんにもないよ。

3 (ポンコツ車を指して) こいつを直そうか……。

1 直るわけないじゃないか。

3 じゃ、ぶっ壊そう。

5 目印がなくなるよ。奴はこれを目指してくるんだぜ。

2 それに、奴がもし来れたとしても、これがなければ俺たちの事を俺たちだと思わないかもしれない……。

1、チリ紙を出してハナをかむ。かんだあとを広げてみて、顔をしかめる。

4 何だ……？（1の広げてみせるのを見て、顔をしかめる）む……。

3 どれ……。 （これも見て）うん……。

5 え……？（見て）ああ……。

2 俺にも……。 （見て）ふん……。

1、たたんで、ポケットにしまう。

3 何故捨てないんだ？

1 かわいたらもう一度使えるよ。

2 問題はね、奴がいつくるかだよ。

4 それだ。それだよ、問題は……。

5 よし。今日は何日だ。

4 十月九日だよ。

3 どうしてわかる、そんな事が……？

2 新聞だよ、見てごらん、十月八日になっている。これは昨日の新聞だから、今日

は九日さ。

5 見せてみる。うん十月八日だ……、火曜日……。

1 そうすると、今日は十月九日の水曜日か……？

5 しかし、どうだろうね、ずいぶん汚くないか、昨日の新聞にしては……？　ここ
んとこシミがついている……。

4 確かに昨日のだよ。

3 去年の昨日のかもしれないぜ。

1 でも、去年の昨日が十月八日なら、今年の昨日も十月八日だから、やっぱり今日
は十月九日さ。

2 そうすると、でも、火曜日だの水曜日だのってのはあてにならないね。

5 よし、それはやめとこう。十月九日ってのはいいかな……？

4 天気予報はあってたよ。

3 だけど、三日続けて同じ天気って事もあるんだからね、例えあってたとしても……
……。

1 こういう事があるよ。お前、これが昨日の新聞だって、最初にいったのはいつだ？

4 それはどういう意味だい？

1 つまりね、もしかしたらこいつはもうおとといの新聞かもしれない。

5 何故？

1 だって、こいつが最初にこれを昨日の新聞だって思った時から、もう日付が変わっているかもしれないじゃないか？

4 そんなに時間はたっていないよ。

2 でもね、日付ってのは、いつ変わるかわからないものなんだぜ。お前が最初に気付いたのが十月九日の夜の十一時五十九分だとすれば、二分たたないうちにも明日なんだ。

5 誰か時計もってないか？

3 持ってるよ。五時三十五分だ。

5 午前かい？

3 さあ、どうかな……？

5 どうかなくて、そんな事わからないのか？

1 貸してみろ。うん……、五時三十五分だけど……、わからない、やっぱり、午前か午後かは……。

2 どうしようもないね。

3 俺も、時計がこんなに役に立たないもんだとは思わなかったな。

4 それじゃどうだい、それが午前の場合と午後の場合と両方の場合を考えてみたら

……？

5 やめよう、ややこしい事は。ともかく今日が何日かって事はわからないんだな……？

1 いや、だいたいのところ十月九日だって事はいえるんじゃないのかな……？

2 いえるね。もしそれが去年の十月八日の新聞だとしても、去年の昨日が十月八日なら今日は十月九日だからね。

3 しかし、三年前の昨日かもしれないじゃないか……？

1 馬鹿だな、三年前の昨日でも、十年前の昨日でも同じ事だよ。

3 何故……？

1 何故って……。いいか、三年前の昨日が十月八日だとすれば、三年前の今日が十月九日なんだから、当然今年の今日も十月九日じゃないか。

3 わからないね、俺には……。

2 俺が説明してやるよ。

4 よせて。 (5に) お前、今日が十月九日ならどうなんだ……？

5 どうなんだって……。そうだ、今日が十月九日なら奴がやってくる日がわかるのさ。

4 どうやって？

5 こうさ、いずれって書いてあるだろう？　これはそのうちって意味だ。そのうちってのは、近いうちって事だよ。近いうちなら、二、三日うちさ。もし今日が十月九日なら、十月十一日か十二日にはくるって事じゃないか。

4 なるほどね。これはいい意見だ。

1 それじゃ、こう考えればいいじゃないか……。いいかい。もし今日が十月九日から十一日か十二日には来るんだ。しかし今日が十月十日なら、十二日か十三日にはくるんだ。そうだろう。だから俺たちは、どっちにしろ、十月十一日から十三日の間に奴がくるって考えればいいんだ。

2 それで完ペキだよ。ややこしい事をごちゃごちゃ考える必要なんかなかったんだ。

3 そうすると……。俺たちどのくらい待てばいいんだ……。？

4 だからさ、今日が十月九日なら十三日までだから、最高四日だよ。今日が十月十日なら十三日までだから最高三日さ。

5 つまり、三日か四日だよ。'

1 よし、待とう……。？

3 お前さっき、二、三日っていわなかったか？

5 いったよ。

3 それじゃあ……。？

1 いいんだよ。今日が十月九日ってはっきりわかってれば二、三日さ。わからないんだよ。だから三日か四日さ。

3 そうか……。

2 ともかく待とう……。

4 奴は東から来るんだな？

5 そうだよ。

4 そうすると、東：西：南：北：だから、こっちか……。よし。それで……。今日は十月九日か十日だから三日か四日待つと……。いいね。これでいい。

全員しばらくじっと待つ。

5 奴はもう家を出たかな……？

4 出たよ、きっと……。

1 何か、匂いはないか……？

2 匂うね……。

4 匂う……？ うん、匂うぞ……。

3 まさか……。

5 俺だよ。きっと俺のこの靴さ。少し干そう……。 (脱いで、並べる)

3 干すと匂わなくなるのか？

5 そうさ。新聞かしてくれ。(新聞で靴をあおぐ)

4 よせ。

5 何だ……？

2 こっちへとんでくるよ。

5 中がしけってるんだ、だから匂うんだよ。(ポンコツ車の上に並べる)この方がいいから風通しがいい……。 (指をなめて風にかざしてみる)おや……。風はこっちら吹いているぜ……。

1 どっちから……？

5 こっちからさ……。

1 じゃ、西風だ……。

2 西風……？

3 変じゃないか……？

4 変じゃないよ、明日になったんだ……。

5 明日……？

4 そうだよ、明日さ。南風じゃなくなったってわけだ……。

1 そうか……。すると今日は十日か十一日ってわけだ……。

2 じゃあ、あと二日か三日待てばいいんだな。

1 一日か二日さ。

4 何故？

1 奴は十一日から十三日の間にくるんだぜ。もし今日が十日で奴が十一日に来るんだったら一日だよ。もし今日が十一日で奴が十三日に来るんだったら二日待てばいい。

3 どうも変だな……。

1 何が……？

3 だって最初は、二、三日まではよかったんだぜ。それが三、四日になって、今度
は一日か二日かい？

1 新しい事実が次々に生まれてきたせいじゃないか。

2 そうだ、そのせいだよ。

4 とにかく待とう。それしかない。

5 しかし、今何時だ、おい……。

3 五時三十五分だよ……。

1 何だって……？

- 3 五時……、三十五分さ……。
- 5 さつきは何時だった……？
- 2 五時三十五分さ。
- 5 馬鹿な、あれからだいぶたっているぜ。
- 4 すると……、ひとまわりしたのかな……？
- 1 そんなにはたっていないよ。とまってるんじゃないか……？
- 4 いや、ひとまわりしたんだよ、だってそうとしか思えないじゃないか。一日たったんだ。そうだよ。
- 3 とまってる……。
- 5 捨てちまえよ、そんなもん。
- 1 待てよ、とまってたんだろう、そいつは？
- 3 そうだよ……。
- 1 そうするといいか……。 (考える) いや、そうじゃないか……。
- 3 何だよ。
- 1 やっぱり駄目だ。捨てた方がいい。
- 2 巻けばいいんだろう？ ゼンマイがゆるんでるだけなんだろう？
- 4 巻いたってしようがないよ。

2 何故？

4 今何時かわからないのに、動いてたってしようがないじゃないか。

3 しかし、あれじゃないか、時間がどれくらいたったかわかるよ。

5 そんなことわかってどうするんだ？

3 だって、俺たちは待つんだろう？ どれくらい待ったかわかるよ。

1 わからないよ。

3 何故？

1 いいか、よく聞くんだよ、俺たちは今、何時かわからないんだぜ。そうだろう？

3 そうだよ。

1 それなら、これからの時間を、どこへつなげてくんだい？

3 つなげてく……？

1 いいかい、興奮するなよ、簡単なことなんだから。順序だてて考えればすぐわかることなんだ。今三時とするよ。それなら、一時間たてば四時になる。これはハッキリしている。しかし、いいかい、今何時かわからない場合はね、何時間たって、何時かわからないんだ……。

2 そうか……。

3 それは、何時かはわからないよ。

1 だからそれじゃ、しようがないじゃないか……。

3 何故……？

4 馬鹿だなあ、しようがないよ、それは。

3 しかし、いいかい、何時間たったかはわかるんだぜ。

1 いつから？

3 今からさ。

1 今だったって、今なんてしようがないよ、こんなもん。どんどんどんどん、今でなくなってくるんだからね。目印がないよ。それから一時間たったって二時間たったって、そんなもん、どうしようもないじゃないか。

2 やっぱり捨てた方がいいかもしれないなあ……。

5 捨てるべきだよ、俺もそう思う。

1 時間てのはさ、大昔から、今一時です二時です三時ですって風につながってきたんだよ。誰かの時計がとまってても誰かの時計が動いてたから、そいつのにあわせつつなげてきたんだ。しかし今は、お前のその一個しかなくて、そいつがとまってしまったんだ。お前がゼンマイ巻くのを忘れたからだよ。ね、こりゃあもうどうしようもないじゃないか。あと何時間たったって、そいつはもう宙に浮いてるみたいなものだ。そんなもん時間じゃないよ……。

3 それじゃ、俺たちは一体どうやって待つんだい……？

4 待つのはさ。待つことは出来るよ。時間と関係なくね……。じっとしているんだ……。

5 待とう。どっちみちそれしかないよ……。

2 あと、一日か二日か……。

3 ねえ、今日が十月十日か十一日だってことは、ハッキリしているんだろう？ そいつにつなげたらどうだい、時間を……？

1 いいか、十日には二十四時間あるんだぜ。それから十一日にも二十四時間あるんだ。全部で四十八時間だよ。そのどれにつなげるんだ。全部の時間につなげた場合のことを考えてるとすれば、俺たちはいつも四十八通りの時間を考えてなければならぬことになるんだ。……捨てるよ。

3 (放り投げる) 畜生。

全員、しばらくじっと待つ。

5 奴は歩いてくるかな……？

4 うん、きつとね……。

- 2 (5の靴を一寸嗅ぎ) おい、こいつはまだ匂うぜ。
- 1 (これも嗅ぎ) 本当だ……。
- 3 (嗅いで) ひどいね……。
- 4 どちら……、(嗅いで) うん、お前の匂いがするよ。
- 5 そうだろう、つまり個性だね。
- 3 捨てちまえよ。
- 5 何故……？
- 3 臭いよ。
- 5 それがいいのさ。(とってはく)
- 1 おい、これは何だ……？(ポンコツ車の屋根に誰かがチューインガムのカスをくっつけたのである)
- 2 フンじゃないかな……。
- 1 フン……？
- 2 鳥のさ、鳥のフンだよ……。
- 4 どれ……、うん、フンだね。(嗅いでみる) 匂いはない……。
- 5 そうすると、鳥が飛んだのかな、このあたりを……。(上を見る)
- 1 まさか。

2 何故？

1 鳥が飛ぶわけじゃないじゃないか、こんなところを……。

5 だって、そうはいえないよ、鳥はいろんな所を飛ぶよ。

4 あのあたりは、空かい……？

2 だろうね……。

みんな、空を見ている。

3 (顔を下し) おい……、変だぞ……。

2 何が……？

3 誰かいるんだ……。

4 何処に……？

3 ここにさ……。

5 ここに……？

3 うん。いいかい……、俺たちは五人いる……。

1 五人……？

3 五人いるよ、数えてみる……。

4 一、二、三、四、五と……、五人だ……。

2 誰だい……？

1 何が……？

2 だって、そうじゃないか、誰かいるんだよ、俺たちの中に……。

5 どういうわけだろう、そいつは……？

3 うん……、今、気がついたんだけどね。何気なく数えてみたら、五人いるじゃないか。

4 一、二、三、四、五……。いるよ、五人だ……。

1 気がつかなかったな……。

5 待て、動くなよ、調べてみよう……。

4 しかし、いいか、俺たちは最初っから五人じゃなかったかな……？

2 最初から……？

4 うん……。

1 最初ってのはいつだ……？

4 いつって……。お前はいつ気がついたんだ、五人てことに……？

3 今だよ。

4 今……？

- 3 今みんなが空を見てたろう、その時気がついたら五人いた……。
- 5 その前は何人いた……？
- 4 そうだ……。
- 3 覚えてないよ。
- 1 その前か……。
- 3 でもね、何だか急に多くなったみたいないないか……？
- 2 そういえばそうだと、多くなったみたいだよ。
- 5 よし、調べよう。こういうことをあいまいにしておくわけにはいかないよ。そうだろう。こういうことが混乱のもとになるんだ。
- 1 いいとも。順序だてて調べれば、すぐわかることだよ。まず……、最初にいたのは誰なんだ……？
- 3 最初っていつだよ？
- 1 最初って……のは、つまり、一番最初さ……。
- 2 かなり古いことだからなあ……。
- 4 いいか、そういうことじゃないんだよ。調べるんだったら、いつ増えたかを調べるべきじゃないか？
- 5 そうだ、その方がいい。

- 1 だけど、最初に何人いたかわからないで、どうやって増えたかわかるんだ。
- 5 それもそうだな……。
- 3 しかし何だよ、今五人いるってことはハッキリしているんだぜ。だったら、そこから始めて、四人だった時のことまでを思い出せばいいじゃないか。
- 4 そうだ、それでいいんだよ。(ーに) な、それでどうだい？
- 1 駄目だな……。
- 5 何故……？
- 1 だって何度いったらわかるんだい、最初に何人いたかわからないで、どうやって増えた数を数えられるんだ。
- 3 だけど、今五人いることは、ハッキリしているんだからね。
- 1 駄目なんだよ。わからないかなあ、いいか……。
- 2 おい、あれじゃないか、奴が来たんだ……。
- 4 どこに……？
- 2 ここにね。それで五人になったんだよ。
- 5 奴って誰だ？
- 2 その手紙の奴だよ。
- 5 奴が……？

2 うん。もう来ちゃったんだ。……そして、ここにいるんだよ。

3 それは、どういうことだ。

2 だとすれば、俺たちが増えたのは、最近だよ。つまり、手紙を受けとったのは、ついさっきだったからね。あれからごちゃごちゃしている間に、奴がやってきて、俺たちの中に入っちゃったんだ。俺たちが見張ってなかったせいさ。見張ってさえすれば、やってきて到着するまで見てることだって出来たし、そいつに印をつけることだって出来たんだからね。

5 じゃあ、もういるのか？

2 そう思うね、俺は……。

4 どうしよう……？

1 そうするとこういうことだよ。奴は東の方から来たんだから、手紙が来てから今迄の間に、俺たちの誰もが東の方を見てない時があったんだ。その時間のことを思い出せばいい。つまり、その間に俺たちは四人から五人になってしまったんだよ。

4 なるほど、そいつはいい。

3 しかし、大変じゃないかな、誰も東の方を見てなかった時なんて……。とても思い出せないよ。

1 しかし、それしか方法はないよ。

5 やってみよう。

2 駄目だよ。その時だれかがこっそり東の方を見ていて、奴が来たのを見ていたのに、気がつかないフリをしていたのかもしれないじゃないか。

5 誰だ、そいつは……？

2 知らないけど、そういう奴がいなくても限らないじゃないか。

4 だけど、そう思わないか、来たんなら来たって、ハッキリやあいいのじゃないか。そ奴のことだけでもね。

3 そうさ、俺もそう思うよ。少なくともそれで問題はひとり片づくんだからね。

5 しかし、そういう奴がいるんだよ、こっそりやってきて、まるで最初からいるみたいなのフリをして、おさまっちまうんだ。

1 俺も知ってるよ、そいつは、そうすることで楽しんでいるんだ。何故それが楽しいのか、俺にはサツパリ分からないけどね……。

2 いやな奴だね。そいつはいいかもしれないけど、まわりにいる奴はいい迷惑さ。

3 そうだよ、どうにも居心地が悪くていけない……。

5 見つけ出して、そいつの面の皮をひっぺがしてやろうじゃないか。

4 どうするんだ……？

5 いいか、少なくとも、この中の一人がそうなんだ。なんとか見つけ出せると思う

んだがね。

1 しかし、俺たちはそいつを知らないんだぜ、どんな奴か……？

5 何とかわかりそうなもんじゃないか……。

1 見てみるよ、この中の誰がそうなんだい？

2 俺は考えたんだけどね……。そいつは靴をはいてるんじゃないかと思うんだ……。

4 靴を……？

3 何故？

2 だって、そいつは歩いてきたんだろう？ 裸足じゃ歩けないよ。

5 俺は違うぞ。

3 俺だってそうじゃない。それにいいか、俺が奴だったら、みんなの中へ入る前に

靴を捨てるよ。そうだろう？ 三人が裸足で、一人が靴をはいてる中に入るには、

裸足になった方が目立たない。裸足と靴をはいてるのが二人ずつの場合、奴はどう

してもいいんだが、もし靴のままできたのなら、今ここに靴をはいているのが三人

いなくちゃいけない。しかし見てみる、三人は裸足だよ。

5 つまり、奴は裸足なんだ。

1 みんなの中へ入って、しばらくしてからそのことに気付いたのかもしれない。俺は、途中で誰か靴を脱いだ奴がいたのを覚えているよ。その時、気付いてそうした

のかもしれない。

5 俺だよ。しかし俺は奴じゃない。それはハッキリしているんだ。

4 何故……？

5 俺は手紙をもってきた。それはみんな覚えていてる筈さ。

2 誰かが手紙を持ってきたのは覚えているよ、しかしそいつがお前かどうかはわからない。

5 俺だよ。

1 俺はいいか、誰かにチューイングガムをやった覚えがある……。

3 もらったよ、誰かにね、お前だったかどうかは知らないけど……。

4 新聞を見たか、俺のもってきた……。

2 新聞は見たよ。お前のだったとは断言出来ないけどね。

3 俺は時計を持ってたよ。もちろん、今はもってないさ。しかし……持ってたんだ、本当だよ。

5 (2に) お前はどうかなんだ……？

2 俺は、煙草をやったじゃないか……。

5 俺にか……？

2 お前にもやった筈だよ。

- 5 俺はもらった覚えはない……。
- 3 俺はもらったけど、お前にももらったかどうかは、覚えてないよ……。
- 1 俺も……。
- 5 俺もね……。
- 2 まあいい、とにかく待とう……。
- 4 そうだ、それしかない……。
- 1 しかし、いったい何を待つんだ……？
- 5 そうか……。奴はもう来たんだ……。
- 3 来て、もう居るんだよ、この中に……。
- 2 どうして名乗り出してくれないのかな……。
- 4 しょうがないよ、奴を責めるわけにはいかない……だって、奴はそうしたかったんだろうからね……。この新聞、もう捨てよう。(まるで投げる)
- 3 もう、十二日くらいになったかな……。
- 2 十一日か十二日じゃないか……。
- 1 いやもうわからないんだ……。そうだよ、もうわからないさ。

しばらく、全員そのまま。

5 思い出したよ、最初のことをさ。最初……俺は一人だった。そして気がついたら横にこのポンコツ車があったよ。

4 そうだ、俺も、そうだったよ。一人だった。見るとポンコツ車が砂に半分埋まっ
ていて、そして、風が吹いていた……。

3 一人だった……。誰もいなかったんだ。夜だか昼だかわからなくて、俺はしばらく
考えたんだ……。そうだよ、ポンコツ車がすぐそばにへたばっていて、さびてい
て……、思い出したよ……。

2 そうか……。それが最初か……。一人だったんだ。誰もいなかったんだ。ポンコ
ツ車だけがあつて。風が吹いていて、砂煙があがって……。

1 風が吹いていたね。何処か遠くの方で風が吹いていた。俺はその音で気がついた
んだ。つまり……そばに誰もいないということだね……。ポンコツ車はあつたよ、
こいつは最初からあつたんだ……。

全員立ち上ってポンコツ車をかこむ。

5 こいつがそうかい、その……最初からあつたのは……。

4 これだよ、俺はよく覚えている。

3 俺も覚えているよ。

2 俺も……。

1 俺もね……。

4 (東西南北を示す十字を指し) これは、……どういう意味だい……？

1 そいつはつまり……方向だよ。

4 すると、方向ってのは、ここから始まっているのかな……？ (十字の真中を指している)

3 そうだよ、それは確かなことさ。そいつもきつと、最初からあったんだ。

2 誰かが書いたんだよ。俺は、そいつを誰かが書いていたのを覚えている。

1 俺さ。ただ、方向は最初からあったんだよ。俺たちは、風を手がかりにしてそいつを探り出したのさ。そして書いた。その、手がかりをね……。

5 ねえ、色々なことがだんだんはつきりしてきたような気がする……。

4 そうだよ。俺たちは、最初は一人だった……。しかし、ポンコツ車があって、方向があった。つまり、風が吹いていたからね。その風が、北風か南風か東風か西風かわからなくても、いずれにしろどっちからか吹いていたんだから、方向はあったのさ。そのあと……、いろいろなおことがあって、今はここにこうしてそれぞれいる

…。

1 そのいろいろなことをどうする…？

3 それはいいじゃないか、ともかく、今ここに、そのポンコツ車があって、そのそれぞれの方に、誰かがいるんだ。

2 誰かが…？

3 誰かさ。

1 つながったのかな…？

5 つながったんだよ。

4 おい、見ろ。車の中に時計があるぜ。

2 本当だ…。とまっているよ、五時三十五分で…。

1 五時三十五分だ…。

3 ねえ、さっき捨てた時計を拾ってきて、この時間につなげたらどうだろう？

1 いいね、そいつはいい。それが唯一の手だよ。俺もさっきそのことを考えてみた。

時計が二つあれば、片一方をとめといて、それとの差を計算すればいい。それで時間間ものがわかるんだ。こいつはとまっているんだからね、永久に…。お前の拾ってきた時計が動くだけ、こいつとの差になって出てくるんだ。

3 拾ってこようか…。

5 今じゃなくていいよ、こいつはもう、永久にとまってるんだから。

3 そうだな……。

4 それで全部つながったよ。俺たちはどうやら五人いて……、つまり正確にいえば、自分以外にそれぞれ四人いる。その四人のことを覚えておこうじゃないか……。誰かが死んだり、行方不明になったりしたら、残った一人一人が、その四人のうちから一人を減らせばいいんだ……。

1 わかったよ……。

2 わかった……。

3 わかったぜ……。

5 わかった……。

風の音。全員、立ちつくしたまま……。

定本

『別役実 第四戯曲集 数字で書かれた物語』

三一書房

一九七四年十一月三十日

第一版第一刷発行